

「モニユメンタ・ヒストリカ・ヤポニアI」(抄出)

豊後キリシタン研究会スペイン語部会訳

文書一九 ローマイエズス会文書ゴアの部二四 I 二二六/二七

一五七九年十二月中旬日本在住司祭、修道士の名簿⁽¹⁾

豊後キリシタン研究会スペイン語部会訳

説明 ヴァリニャーノの命令により書かれ、日本だけのものをあつかった最初のものである。それ以前はインド管区に属するものとして書かれた。

一五七九年七月二五日ヴァリニャーノは日本に到着、在日当初の数か月間に多くの書簡をしたためたが、その中に日本在住イエズス会士の名簿もふくまれていた。言葉の理解度云々とのべられているが、当時のヴァリニャーノには、それがわかるはずもなかった。おそらく誰かに聞いて作成したものと思はれる。カブラルはその情報源ではなかったか。

(滞部)

巡察師

一 司祭ロレンソ・メシア 巡察師秘書、コンパニエロ修道士オリヴェリオ

二 司祭フランシスコ・カブラル 全日本の上長、ポルトガル人、五十才、イエズス会在会二六年、四誓願修士、生来がっちりした体格で強健、しかし持病に悩まされたびたび患う。日本在住十年、日本語の理解は中程度。

三 司祭ガスバル・コエリオ ポルトガル人、五十才、^{シモ}下地区⁽³⁾諸住院の上長、三誓願修士、体格がよく健康である。背が低くやせ型、胃腸が弱い。イエズス会在会約二十年、日本在住九年。日本語は解らないが、博識である。

四 司祭ルイス・フロイス 四十八才、イエズス会在会約三十年、豊後地区諸住院の上長、如才がない。持病があるため血色がすぐれない。日本在住十六、七年、日本語を非常によく理解している。

五 司祭オルガンティーン イタリア人 約四十五才、イエズス会在会約二十年、三誓願修士、がっちりした体格である。日本在住十年、日本語の理解は中程度、都地区^{ミヤコ}諸住院の上長。

六 司祭ベルヒオール・デ・フィゲイレド インド生れのポルトガル人、五十才、イエズス会在会二十年以上、重責のためか病氣勝ちである。日本在住約十五年、日本語を非常によく理解している。府内在住。

七 司祭バステイアン・ゴンサルヴェス、ポルトガル人、四十五才位、イエズス会在会二十年以上、三誓願修士、健康、日本在住九年、日本語をよく理解し、話すことも告白をきくこともできる。平戸住院在住。

八 司祭バルテサル・ロベス ポルトガル人、四十五才、イエズス会在会十七年、健康である。日本在住十年、日本語で告白をきくことができる。口ノ津在住。

九 司祭ジョヴァンニ・バッティスタ イタリア人、五十才、イエズス会在会二十五年以上、肥満体ながら健康である。日本在住約十八年、日本語の理解は中程度。天草住院に在住。

十 司祭ジョアン・フランシスコ 四十才位、イエズス会十七、八年、健康がすぐれない。日本在住六年、日本語で告白をきくことができる。

十一 司祭クリストヴァン・デ・レオン スペイン人、三十二才位、イエズス会在会十年ないし十一年で非常に健康である。日本在住三年、日本語で告白をきくことができる。長崎の住院に在住。

十二 司祭アロンソ・ゴンサレス 三十四、五才位、スペイン人、イエズス会在会十一、二年、がっちりした体格である。日

本在住三年、日本語で告白をきくことができる。天草の住院に在住。

十三 司祭アントニオ・ロペス ポルトガル人、三十四才、イエズス会在会十四年、健康である。日本在住三年、日本語は他の二人のロペスよりもよく理解している。本渡の住院に在住。

十四 司祭ペドロ・ラモン スペイン人 三十二才、イエズス会在会十年、健康である。日本在住二年、日本語を習得中、豊後府内の^{カサ}修院に在住。

十五 司祭バルテサル・ロペス 小さい方(のロペス)、三十才位、イエズス会在会十三年以上、健康である。日本語の習得がおそい。平戸の住院に在住。

十六 司祭ベルシオール・デ・モーラ スペイン人、三十二、三才位、イエズス会在会十年、非常に健康である。日本在住二年、日本語の習得がはやく、博多の市^{マチ}にいたが、現在は長崎に在住。

十七 司祭グレゴリオ・デ・セスペデス スペイン人、二十七、八才位、イエズス会在会十年ないし十一年、非常に健康である。日本在住二年、日本語を習得し、すでに告白をききはじめている。都に在住。

十八 司祭ゴンサロ・ラペロ ポルトガル人、非常に健康である。三十才、イエズス会在会約十二年、日本在住二年、日本語を理解している。豊後臼杵の^{ソトミヌストロ}修院の副院長である。

十九 司祭アントニーノ イタリア人、三十三才、イエズス会在会十二、三年、健康である。日本在住一年、日本語を習得中、現在臼杵の住院に在住。

二十 司祭ジュゼッペ・フルラネットイ 三十才位、イエズス会在会十年、イタリア人、健康である。日本語を習得中、^{コウ}郡の住院に在住。

二十一 司祭アフォンソ・デルセナ 二十七才 イエズス会在会十二、三年、ポルトガル人、健康である。日本在住一年、日本語習得中、大村の住院に在住。

二十二 司祭ジュリオ・ピアニー 三十三才、イエズス会在会十七年、イタリア人 健康である。日本在住一年、日本語習得中、現在口ノ津の住院に在住。

二十三 修道士ルイス・ダルメイダ 五十五才、イエズス会在会二十一、二年、同年数日本在住。ポルトガル人、日本語を流暢に話すが、あまりきれいとはいえない。現在口ノ津に在住。

二十四 修道士アイレス・サンチェス 五十才、イエズス会在会十七年、同年数日本に在住、日本語を非常によく理解している。現在口ノ津に在住。

二十五 修道士ミゲル・ヴァス インド生まれ、四十才位、日本在住十四、五年、イエズス会在会十年、きれいではないが日本語を流暢に話す。現在口ノ津に在住。

二十六 修道士ギリエルメ ポルトガル人、三十三才位、日本在住十四年、日本語をよく知っており、ゆっくり話すことができる。生来やせ型、現在ドン・パルトロメオの領地⁽⁵⁾に在住。

二十七 修道士ラグーナ

二十八 修道士カリオン

兩人ともスペイン人、二十七才位、イエズス会在会約九年、健康である。日本在住二年、どうか告白をきくことができる程度に日本語を理解している。現在口ノ津に在住。

二十九 修道士アルヴァロ・ディアス インド生まれのポルトガル人

三十 修道士アンドレ・ドリア 中国生まれのポルトガル人

三十一 修道士クリストヴァン・モレラ ポルトガル人

三十二 修道士ミゲル・ソアレス ポルトガル人

三十三 修道士マノエル・ボラリオ ポルトガル人

三十四 修道士アマドール・デ・ゴイス インド生まれのポルトガル人

三十五 修道士ガスパル・マルチンス ポルトガル人

三十六 修道士ジョアン・デ・ミラン インド生まれのポルトガル人

三十七 修道士ペロ・コエリョ ポルトガル人

以上全員二十才から二十五才まで、イエズス会在会三年前後、日本在住一、二年。豊後臼杵の修院で日本語を習得中で、現在文法の初歩がわかる程度になっている。

三十八 修道士ディオゴ・デ・メスキタ

三十九 修道士シメオン・ダルメイダ

前者は二十四才、後者は二十才で兩人ともイエズス会在会五年、ポルトガル人、日本在住二年。日本語を習得中で、文法がわかる程度になっている。都の修院に在住。

四十 修道士アンブロシオ・デ・バイロス インド生まれのポルトガル人 日本在住五年、イエズス会在会三年。日本語を流暢に話すがきれいではない。二十七、八才、口ノ津の住院⁶⁾に在住。

四十一 修道士バルトロメオ・レドンド マジョルカ島出身、⁶⁾三十三才、イエズス会在会八、九年、日本在住二年。本渡の住院に在住。

四十二 修道士ジョアン・デ・クラスト ポルトガル人、四十五才以上、イエズス会在会二年、府内の修院に在住。

四十三 修道士ドミンゴス・フェルナンデス ポルトガル人、三十才位、イエズス会在会三年、臼杵の修院に在住。

四十四 修道士デイエゴ・ペレラ インド生まれのポルトガル人、二十八才、イエズス会在会五年、都に在住。

四十五 修道士ジョアン・ベルナルデス「ポルトガル人、日本在住二年、今年イエズス会に入会し、天草の住院に在住。二年間の修練を終った。二十四、五才。

四十六 修道士アンブロシオ・フェルナンデス 三十才、ポルトガル人、非常に健康である。日本在住二年、今年イエズス会に入会、長崎の住院に在住、二年間の修練を終っている。

四十七 修道士ロレンソ 日本人、五十才〔有名な説教師、ただし日本語のほかはポルトガル語もラテン語も話せない。イエズス会在会二十年以上。都に在住〕。

四十八 修道士ジョアン 日本人、二十八、九才、イエズス会在会十ないし十一年、よくポルトガル語を話し、日本語で上手に説教ができる。現在口ノ津在住。

四十九 修道士ダミアン 三十五才位、イエズス会在会十一、二年、日本人、たくみな説教師、現在府内に在住。

五十 修道士コスモ 日本人 三十才以上

五十一 修道士ロケ 三十才

五十二 修道士パウロ 二十五、六才

五十三 修道士マティウス 右と同年輩、(ロレンソ以下の)七人は日本人で、(コスモ以下の)四人はイエズス会在会三年でいずれも説教師である。修道士ジョアンは非常に上手にポルトガル語の読み書きができるが、そのほかの者は、日本語のほかは話すことも理解することもできない。

以上五十五名、なおイエズス会入会を希望して修練準備中の者たち(ポルトガル人と日本人よりなる)は八ないし十か所の住院に分かれて居住している。

日本在住司祭、修道士の名簿 第二便

註 (1) ヨセフ・フランツ・シュツテ編「モニユメンタ・ヒストリカ・ヤポニア」(ローマ 一九七五年)

(2) イエズス会に入会して司祭への道を目指す者は、まず二年間の修練期間をおえ、三単式終生誓願を立てた上で修学修士となる。その後一年間の第三修練期を経て、最終的な階位を与えられることになるが、ここで選考によって単式公誓願を行なう者と、盛式誓願を立

てる者とに分けられる。前者を修士補、後者を立誓修士という。立誓修士は、最初は三盛式誓願を立てるが、その後さらに選ばれた者が四誓願を行なう。第四番目の誓願は、特命に關しローマ教皇への絶対的服従を誓うものである。「カトリック大辞典」1 一九四〇年）

(3) 九州で豊後を除く地区、主として肥前地区をいう。日本は、下、豊後、都（又は上^{カミ}）の三地区に分けられていた。

(4) インドのゴアおよびその周辺を指す、一五一〇年十一月、ポルトガルはインド西海岸のほぼ中央にあるゴアを奪取した。以後四五〇年間この地域はポルトガル領であった。

(5) 大村純忠

(6) スペイン領、地中海にあるバレアレス諸島最大の島。

附記 豊後キリシタン研究会スペイン語部会は、カトリック司祭溝部脩先生の指導により、スペイン語およびポルトガル語の学習を行いながら、豊後キリシタンの研究を目的とする小さなグループで、そのメンバーは、溝部先生のほか、赤嶺重信、成田勝、広石憲俊、有永文博、菊池ヨシ子、長野麻子、朝来はぐみ、岡本節子の九名である。（以上の註、附記は成田による）

文書二十 ローマイエズス会文書日本の部二五 一一二

一五八一年十二月二十日 日本在住イエズス会の学院、修院ならびに司祭、修道士の名簿⁽¹⁾

最新の年報以前の修院の状態のままに

豊後キリシタン研究会スペイン語部会訳

説明 ローマイエズス会文書日本の部二五の一―二二葉目の補書を除いてひとりの人の筆跡である。

ヴァリニャーノは一五八二年三月日本からマカオに帰着、その時日本についての多くの書類を持参した。カルヴァリャールは八二年八月、マカオに到着、八二年の終りを前にして彼がこの名簿を作成したものとおもわれる。ゴメスは出航を待っている人の中に入っている。彼は八二年七月、日本への途次台湾沖で遭難したため十月には一端マカオに帰り待機中であつた。従つてこれはそれ以後（十月八日）

に書かれたものである。ヴァリニャーノのゴアへ向けてのマカオ出航は八二年末であるから、この名簿は十月八日から十二月末までの間に出来上ったとみてよい。作成の場所はマカオ、編者はカルヴァリヤールである。(溝部)

豊後国

府内修練院⁽²⁾

司祭 フランシスコ・カブラル⁽³⁾ 豊後諸住院の上長、ポルトガル人

司祭 ペドロ・ラモン⁽⁴⁾ 修道院長ならびに修練長、スペイン人

司祭 フランシスコ・デ・ラグーナ⁽⁵⁾ スペイン人

修道士※ガスパル・マルティンス⁽⁶⁾ 修練長補佐、ポルトガル人

修道士※ジョアン・デ・クラストロ 上長補佐

修道士※ドミンゴス・フェルナンデス 修士補、ポルトガル人

修道士※アンドレ・ドリア ポルトガル人

修道士※ジョアン・デ・トルレス⁽⁶⁾ 日本人説教師

修練者

修道士 ジョアン・ベルナルデス

修道士※ジェロニモ・コレア

修道士※シマン・ゴンサルヴェス

修道士 ペロ・カラスコ

修道士 フランシスコ・ドリア

以上ポルトガル人

修道士 リノ

修道士 シマン

修道士 高田のリアン

修道士 ジアン

修道士 イグナシオ

修道士 ベルヒオール

以上日本人

豊後国

府内聖パウロ学院

司祭 ベルヒオール・デ・フィゲイレド レイニール 学院長、ポルトガル人

司祭 アントニーノ メストレ 教師、イタリア人

司祭 アルヴァロ・ディアス (7) ポルトガル人

修道士 マニユエル・ボラリヨ ソトミストロ 上長補佐、ポルトガル人

修道士 養方パウロ

修道士 ミゲル

日本人、説教師

修道士 ミゲル・ソアレス

修道士 ペロ・コエリョ

修道士 アマドール・デ・ゴイス

修道士 ジョアン・ロリドゲス

修道士 ルイス・ダブレウ

以上ポルトガル人学生

由(布)の住院^{レジデンシア}

司祭 ゴンサロ・ラベリョ⁽⁸⁾ ポルトガル人

修道士※マティアス

野津の住院

司祭 ジョヴァンニ・バッティスタ イタリア人

修道士※ファンカ・リアン 日本人 説教師

都地区^{ミヤコ}

山城国

都の市^{ミヤコ}

司祭 ジョバンニ・フランシスコ イタリア人 上長

修道士※バルトロメオ・レドンド 上長補佐 スペイン人

修道士 コスメ 日本人 説教師

近江国

安土山の市 アツチ

信長の居城 フオルタナ

司祭 オルガンテイーノ イタリア人、同地区全域の上長

司祭 カリアン スペイン人 院長 ミニストロ

司祭 デイオゴ・デ・メスキータ ポルトガル人

修道士 シメアン セミナリオ教師 メストレ ポルトガル人

修道士 ソトミニストロ デイオゴ・ベレイラ 上長補佐 ポルトガル人

修道士 ソトミニストロ ロレンソ

修道士 ソトミニストロ ヴァイセンテ

日本人 説教師

(撰) 津国

司祭 ジュゼツペ・フォルラネツテ イタリア人

修道士 ジェロニモ・ヴァス ポルトガル人

若江

司祭 グレゴリオ・デ・セスペデス

修道士※パウロ 日本人 説教師

下地区
シモ

肥前国

有馬セミナリオ

司祭 メルヒオール・デ・モウラ 学院長、スペイン人

司祭 クリストヴァン・デ・モレイラ ポルトガル人

修道士※ジョアン・デ・ミラン セミナリオ教師

修道士※アンブロシオ・ダ・クルス 上長ソトミニストロ補佐 ポルトガル人

修道士※ジョルゲ 日本人

有馬領

有家の城
フナシラ

司祭 アロンソ・ゴンサレス スペイン人上長

修道士※アントニオ・アルヴァレス ポルトガル人

修道士 ロケ 日本人 説教師

有馬領

口ノ津港

司祭 バルテサル・ロペス(大)⁽⁹⁾ ポルトガル人 上長

修道士※ギリエルメ ポルトガル人

ドン・バルトロメオ領⁽¹⁰⁾

大村の城

司祭 ルセナ ポルトガル人 上長

修道士※フランシスコ・フェルナンデス ポルトガル人

コオリ
郡の城

司祭 クリストヴァン・リアン スペイン人

修道士※ニコラオ

長崎港

司祭 ガスパル・コエリョ 日本準管区長ポルトガル人

司祭 ルイス・フロイス 準管区長補佐^{コンパニエロ} ポルトガル人

司祭 ミゲル・ヴァス 準管区財務担当^{(11) アポクラトル} ポルトガル人

〔司祭〕 アイレス・サンチェス⁽¹²⁾ ポルトガル人

修道士※アンブロシオ・フェルナンデス 上長補佐^{ソトミニストロ} ポルトガル人

修道士 ロケ 日本人 説教師

平戸領

司祭 バルテサール・ロペス(小) ポルトガル人

司祭 バステイアン・ゴンサルヴェス ポルトガル人

肥後国

天草領

(河内) 浦の城

司祭 ジュリオ・ピアノ イタリア人

本渡の城

司祭 アントニオ・ロペス ポルトガル人

修道士※ゴメス 日本人

久玉の城⁽¹³⁾

司祭 ルイス・ダルメイダ⁽¹⁴⁾

日本在住の司祭、修道士は六十四名、修練院一、学院一、セミナーオ二、修院十四

このほか日本への渡航のため、中国で待機している者

司祭 ペドロ・ゴメス⁽¹⁵⁾ 豊後地区上長に就任の予定

司祭 フランシスコ・パシオ イタリア人

司祭 ジョルゲ・カルヴァリヤール ポルトガル人

司祭 ダミアン・マリソ スペイン人

修道士 フランシスコ・ピレス ポルトガル人

修道士 ジョバンニ・ニコラオ イタリア人

修道士※ジョバンニ・ジェラルディーノ イタリア人

一五八一年日本在住イエズス会の学院、修院および会士の名簿

総長宛

註 (1) ヨセフ・フランツ・シュツェ編「モニュメント・ヒストリカ・ヤポニアー」(ローマ一九七五年)

(2) 修練院は一五八〇年十二月、白杵に創立された。(一五八〇年十月二日付、パードレ・ロレンソ・メシヤが豊後より耶蘇会の総会長に贈りし書翰)

(3) 一五七〇年に来日、八一年半はまで全日本布教長であり、豊後地区の上長であった。七五年には親家、七七年には親虎(田原)、七八年には宗麟に授洗した。

(4) ゴアで修練院長、修練長を経験した後一五七七年来日、府内にいた。八〇年から八六年まで白杵の修練院長をつとめ、その後も肥前の各地で教育機関の長をつとめ、長崎で死去した。

(5) 豊後において働き、宗麟の霊的な導き手であった。

(6) ポルトガル語で読み、書き、話すことのできた唯一の日本人。宗麟の側近のひとり。

(7) 一五八二年マカオで叙階、司祭になった。

(8) 一五七七年に来日、豊後において、八一年から八七年一月まで由布院で働き、豊後破滅の折、妙見に逃れた。

(9) 同姓同名のロペスがおり、体の大きい方が大、小さい方が小である。

(10) 大村純忠

- (11) 長崎駐在の初代プロクラドールでその職を十九年間つとめた。一五七九年の終りか八〇年に、ルイス・ダルメイダ、フランシスコ・ラグーナ、カリオン、アイレス・サンチェスと共にマカオで叙階、司祭になった。
- (12) アルメイダの要請に答えて渡日、府内の病院で働き、傍ら少年達に聖歌やヴィオラを教えた。
- (13) 原文には「クタミ（朽網）」とあるが「クタマ（久玉）」のまちがいであろう。久玉は天草下島の南、現在の牛深市にある。
- (14) マカオでの叙階ののち、長崎にもどり、天草の修院長をとめ、一五八三年十月、「神と教会のために大きな奉仕をとげ」て、永遠の眠りについた。
- (15) 一五八五年志賀親次（太郎）に、八七年には豊前の妙見城で義統とその妻、ならびに子女達に授洗した。（以上註記は成田による）
- ※は誓願者である。

【近刊】案内】

大分大学名誉教授
別府大学教授
文学博士

渡辺澄夫著 『豊後大友氏の研究』 第一法規出版

A五判・約三五〇頁・定価三、五〇〇円

九州中世史に多大な足跡を残した豊後大友氏について、著者積年の研究を集大成した大友氏研究の決定版！
十一月一日全国一斉発売・お申し込みは全国有名書店へ